

(環境と金融に関する懇談会)

当社グループの環境への 取り組みについて

新日本石油株式会社

執行役員
経営管理第1本部 経理財務部長

一色 誠一

<http://www.eneos.co.jp>

2006年4月6日



新日本石油
Your Choice of Energy

新日本石油グループの 環境への取組みについて

1. 製品・サービスにおける環境対応(1)

環境ハイオク「ENEOS NEW ヴィーゴ」

2005年1月から供給開始。従来からの性能「サルファーフリー（硫黄分10ppm以下）の保証」「摩擦調整剤の配合」に加え、「国内最先端の清浄性能」を実現。

サルファーフリーレギュラーガソリン・軽油

将来の環境規制を先取りし、2005年1月から供給開始。

石油連盟として「平成17年度東京都環境賞（知事賞）」を受賞。

→ 当社は、「サルファーフリーガソリンの製造販売並びにガソリン脱硫技術の開発」の実績に対し、「平成17年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰（技術開発・製品化部門）」を受賞。

1. 製品・サービスにおける環境対応(2)

燃料電池システム

- ・ L P G仕様家庭用燃料電池システム (E N E O S E C O L P - 1) を2005年3月に商品化。
- ・ 灯油仕様家庭用燃料電池システム (E N E O S E C O B O Y) を2006年3月商品化予定。

省エネルギーソリューション

- ・ 青森県庁舎及び警察本部庁舎に対する E S C O (Energy Service Company) 事業 ¹
- ・ 富士写真フィルム(株)に対する天然ガスオンサイト発電設備による B O O (Build Own Operate) 事業 ²

1 E S C O事業：包括的省エネルギーサービス事業

2 B O O事業：通常のオンサイト事業と異なり、運転管理まで事業者が実施するオンサイト事業のこと。

2. マネジメント体制の確立

- ・ 2005年3月 本社と中央技術研究所においてISO14001の認証を取得。2006年度までに当社全支店およびグループ主要18社（本社部門）において認証取得完了予定。
- ・ 2006年1月 日本政策投資銀行「環境配慮型経営促進事業」における環境格付けで最高評価を取得

3. 環境負荷低減への取り組み

地球温暖化防止対策

- ・ 製油所エネルギー消費原単位削減（目標 = 2010年度：1990年対比20%削減）
- ・ 日本温暖化ガス削減基金、世界銀行コミュニティ開発炭素基金への参画

土壌汚染調査・対策

2006年度までに新日本石油・新日本石油精製の全稼働中物件について調査完了予定。（規制対象外の油分に関しても自主的に調査を実施）

廃棄物削減対策

2010年度ゼロエミッション達成を目標（新日本石油精製は2007年度）

4. 環境貢献活動

ENEOSカードによる環境支援

お客様がSSで利用した金額の0.01%相当額を（社）国土緑化推進機構へ寄付。累計約6千万円。

「ENEOSの森」の展開

全国の製油所所在地を中心に4ヶ所設置。2006年度中にさらに2ヶ所設置予定。

「公益信託ENEOS水素基金」の創設

水素エネルギー供給に関する基礎研究に対し、助成金の支給を開始。（助成する研究は2006年4月下旬より募集予定）

個別の取組みについて

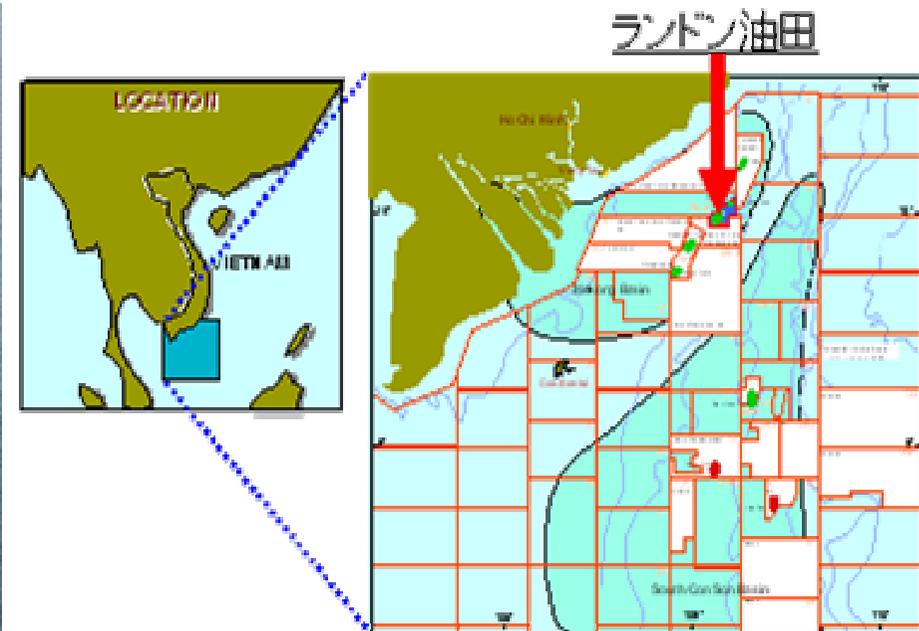
1

(ベトナム) ~ CO₂削減で世界最大、随伴ガス回収・有効利用として世界初 ~
「ランドン油田随伴ガス回収・有効利用プロジェクト」がCDMとして承認(2006年2月)

< ランドン油田 >



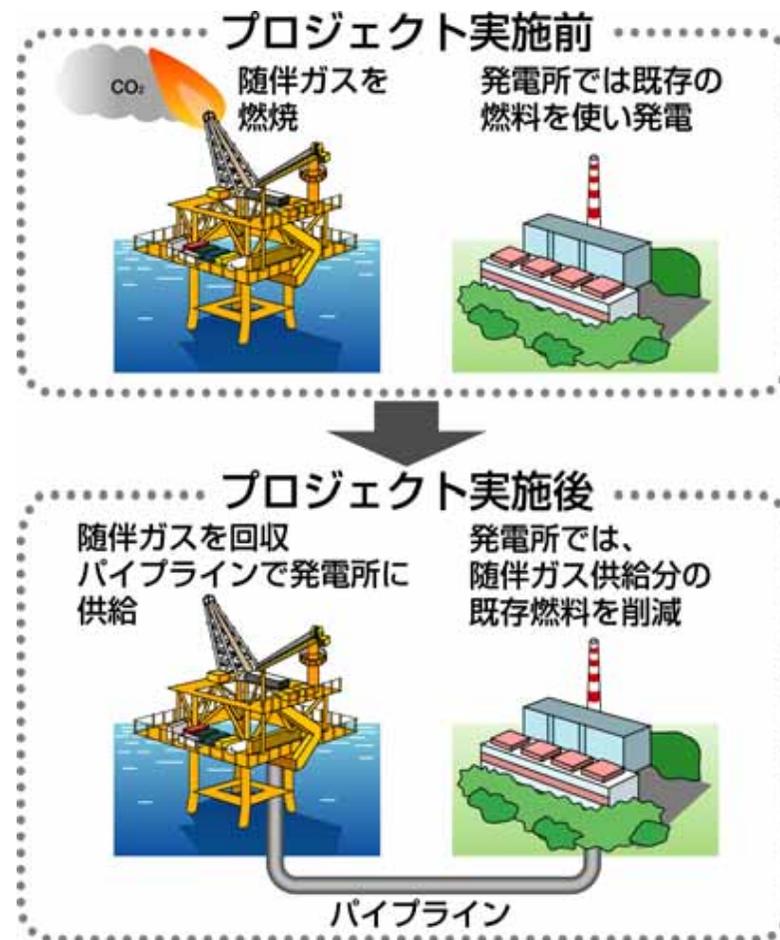
< ランドン油田鉱区図 >



- プロジェクトの概要

- プロジェクトの特徴

- (1) CO₂削減として世界最大
- (2) 随伴ガス回収・有効活用として世界初



2

SRIファンドの採用について

SRIの評価軸イメージと運用プロセス

